



# 図書館だより

2024年1月  
Vol.20  
大分県立看護科学大学  
図書委員会



## ◆◆◆ ご挨拶 ◆◆◆

図書委員会委員長 林 猪都子

最近のデジタル・トランスフォーメーション(以下「DX」)の進展は著しく、「いつでもどこでも誰でも利用できる図書館」を目指して、図書館もDX化への変化が求められています。

本学は図書館のDX化を検討するために、医学系文献の検索・閲覧ができる「メディカルオンライン」の導入に向けてトライアルを行い、利用した大学院生・教員から「文献がオンラインですぐに手に入り便利」「実習中に電子書籍が閲覧できて大変参考になった」などのご意見をいただきました。

図書館のDX化が進んでくると図書館へ来なくても、論文や書籍を自宅や大学の研究室、講義室などからオンラインで閲覧することが可能となります。将来に向けて、購入資料や書架スペース、予算を検討しながら、図書館のDX化を徐々に進めていくことが重要であると考えます。

## ◆村嶋学長在職期間中の図書館の改善状況

2012年に村嶋学長が本学に着任されてから図書館でもさまざまな改善が行われました。データベースの導入や、書架の安全対策など村嶋学長の御指導のもと、図書委員会一同利用者にとってよりよい図書館をめざしてまいりました。主な改善状況をまとめましたのでご覧ください。

年度	主な図書館サービス・設備の改善状況	年度	主な図書館サービス・設備の改善状況
2012 (平成24)	最新看護索引Web導入 学生・卒業生に対する休日開館(土曜日)貸出サービス開始 JUSTICE(大学図書館コンソーシアム連合)に参加	2017 (平成29)	図書館利用者のポータルサイトMyOPAC 利用開始 機関リポジトリ公開 閲覧席の椅子70脚を更新 1階閲覧室西側に縦型ブラインド設置 1階閲覧室参考図書コーナー上に「博士論文コーナー」を設置
2013 (平成25)	CINAHL with Full Text 導入 Cochrane Library 導入 「研究者のためのコクラン研修会」開催 講師 大田えりか先生	2018 (平成30)	海外文献デリバリーサービス「Reprints Desk」導入 教職員推薦図書を紹介する「教職員おすすめの一冊」を開始 映像配信教育システム「ビジュランクラウド」導入
2014 (平成26)	CINAHL with Full Text 利用者講習会開催 広報誌「図書館だより」創刊 図書館がおすすめの図書を展示する「企画展示」開始	2019 (令和元)	新聞保存期間延長(3ヶ月→1年)により保存用ラックを設置 書架に図書落下防止装置を設置
2015 (平成27)	図書館釣り天井耐震化工事開始(11月末終了) 電子書籍Maruzen eBook Library 導入 教職課程(養護教諭)開始に伴い養護教諭図書コーナーを設置 1階閲覧室照明にLEDを導入 厚生学院同窓会(草の実会)会員寄贈絵画(5点)を館内に展示	2020 (令和2)	退館ゲートの更新 「CINAHL with Full Text」の学外からの利用開始 旧メディアセンターをマルチルーム(ラーニングcommons)として整備
2016 (平成28)	寄贈絵画4点(高橋理事より)を館内に展示 図書リユースデーの開催(以降は年1回7月に開催)	2021 (令和3)	医中誌Web学外からもIDパスワードで利用可能となる 「講義の理解を助ける図書」リストを図書館HPに公開 図書館システムプレイス
		2022 (令和4)	「1年生が友人にすすめたい本好きな本」を年間を通して展示 寄贈絵画2点(首藤晃良様より)を館内に展示



## ◆大分県立看護科学大学の図書館について思うこと

学長 村嶋幸代

私は、本学、大分県立看護科学大学の図書館が大好きです。静謐で、暖かな居心地の良い空間があり、割と幅広く、本が整備されています。図書館として、適度なサイズだと思います。何よりも、司書さんが様々な工夫を重ね、時節に応じた企画展示をしたり、図書館だよりを発行して、図書館としての魅力が増えています。あまり表からは見えないかもしれませんが、実は、「改善・改革」を継続的にしてくださっています。左記の表は司書さんがまとめてくださったものです。毎年毎年、様々な側面から改善・改革が行われ、だんだんと便利に、そして居心地の良い空間ができてきた様子が分かります。

図書館の運営は、基本的には3人の司書さんと図書委員会が行うのですが、学長が大きく関わる時もあります。「運営方針を決める時」、「お金のかかる事を前に進める時」です。

1つ目の「運営方針の決定」に関しては、「雑誌の整備方針」が挙げられます。雑誌は、最新の知識を入手する重要な情報収集の方法です。私が赴任した2012年当初、本学の雑誌は、紙ベースで揃えるという方針でした。しかし、今は電子化、ICT化の時代です。何とかインターネットを主に整備できないかと考え、方法を模索しました。丁度、大学院の看護科学特論の講義で来学された聖路加看護大学の田中えりか教授に相談しました。すると、JUSTICE(大学図書館コンソーシアム連合)への加入を強く勧められ、即、入会しました。翌年、看護分野の学術誌や出版物を収録しているCINAHL with Full TextとCochrane(医学研究の系統的レビューとメタ分析のデータベース)を導入しました。本学のCINAHL利用は、代理店EBSCOによれば、導入直後の2012年も現在の2023年も、他大学と比較すると、多いそうです。今後も、沢山活用して、学びと研究を進めていただきたいと思います。

2つ目の「お金がかかることの整備」に関しては、2つ挙げたいと思います。従来、視聴覚教材を扱う部屋として図書館に属していたメディアセンターを廃止してマルチルームを整備したこと、そして、地震対策として、書架に図書落下防止装置を設置したこと。これは、熊本地震の時に力を発揮し、落下した書物が数冊で済みました。他に、天井の耐震化工事は、県が進めてくださいました。これで、安全性が高まりました。

また、図書館内には絵画が10点以上飾られています。本学の前身である厚生学院の同窓会(草の実会)の是沢郁子先生が描かれた絵、元本学理事の高橋靖周様からの寄贈の絵、首藤晃良様が描かれた絵が飾られ、豊かな空間を作り出しています。

以上のように、本学の図書館は、安全・安心・利用者にとっての便宜を追求してきました。随分と進みましたが、一方で、悩みも多いです。まずは、書籍・雑誌の値上がりです。近年の物価高騰等で重要な雑誌の購入を停止せざるを得ませんでした。また、本学の図書館には、プロとして図書館を運営し、改善・改革を進める司書さんがいますが、待遇が臨時職員であり、申し訳ないと思っています。図書館の運営は、図書委員会(委員長:林猪都子教授と4名の教職員)が、司書さんと相談しながら、図書館サービス・設備の改善・改革を進めてくださっています。図書館長は福田広美看護学部長が兼務していますので、図書委員会の役割は大きいです。

図書館は大学の重要な柱です。利用者が意見・要望を出すことによって、進歩します。個人的には、社会現象をエビデンスを積み上げて解明する本がもっと欲しいですが、良い図書館は学生と教職員が心掛けて要望することで実現します。大いに提案し、勉学に励んでください。

大分県立看護科学大学図書館の現在までの進化に感謝し、今後の発展を祈念しています。



◆村嶋学長 おすすめ図書 <新刊コーナー横のワゴンに置いています>

村嶋学長がおすすめの図書15冊を紹介してくださいました。前半は看護に関するもので学生時代や若い時に読んだという本です。後半にはリーダー論の本や保健師を描いた漫画など、どれも興味深いものばかりです。ぜひ読んでみてください。



**看護の挑戦：フロントランナーの仕事に学ぶ**  
濱松加寸子、渥美藤江【編】北川隆吉【監修】 桐書房

看護の新しい方向性を示した14人を取り上げて、本人の想いを語って貰ったものです。私の尊敬する川村佐和子先生(難病ケアの開拓者)や草間朋子・本学名誉学長も掲載されています。私は、「保健師教育の新たなシステム構築」ということで思いを話しました。



**異端の看護教育：中西睦子が語る**  
中西睦子【著】松澤和正【聞き手・構成】 医学書院

中西先生は、看護の理論家です。いつも、思いがけない切り口で話をされます。看護の幅広さ、斬新さを感じる本です。そして、看護者は、自由であって良い！と感じる本です。



**ナイチンゲール著作集 第1巻～第3巻**  
薄井坦子、小玉香津子【ほか】【編訳】 現代社

ナイチンゲールは、クリミア戦争で大活躍した後、身体を壊し、自宅に引きこもりましたが、その中でも執筆活動を続け、膨大な著書を残しました。東大の衛生看護学科ができた時、その教員たちが翻訳をしました。それがこの3部作です。私は第2巻の「病人の看護と健康を守る看護」、「町や村での健康教育」が好きです。



**推理する医学**  
バートン・ルーチェ【著】山本俊一【訳】 西村書店

疫学の本ですが、大変楽しく読めます。一例からでも疫学推論が成り立つことがわかります。事例を注意深く見ることの重要性を、再認識させられます。



**ルポ ゴミ屋敷に棲む人々**  
孤立死を呼ぶ「セルフ・ネグレクト」の実態  
岸恵美子【著】 幻冬舎

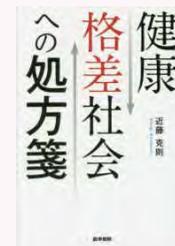
「ネグレクト」が社会問題になって久しいです。本著は、保健師として、地域の中で普通に起こってくるネグレクトの問題に向き合い、一人一人の病理を明らかにし、対応策を模索しながら提案している本です。

◆村嶋学長 おすすめ図書 <新刊コーナー横のワゴンに置いています>



**最高の体調を引き出す超肺活**  
小林弘幸【著】末武信宏【監修】 アスコム

本学の公開講座に来ていただいた小林先生のご著書です。呼吸の仕方によって全身の隅々まで酸素が行き渡る感覚をつかめます。私は、Zoomで、弟に号令をかけてもらって、姉と一緒に身体を動かします。



■健康格差社会 何が心と健康を蝕むのか 第2版  
■健康格差社会への処方箋  
近藤克則【著】 医学書院

長寿社会である日本で、実は健康格差や貧困問題が進行しています！著者はこの問題に20年以上一貫して取り組み、日本で起こっている事実を明らかにし、「処方」まで提案してきました。社会現象を追求していくことの重要さと面白さを認識させられる本です。



<スペンサー・ジョンソンの本>

■チーズはどこへ消えた？  
■頂きはどこにある？  
■プレゼント  
スペンサー・ジョンソン【著】  
門田美鈴【訳】 扶桑社



**苦しかったときの話をしようか**  
- ビジネスマンの父が我が子のために書きためた「働くことの本質」-  
森岡毅【著】  
ダイヤモンド社



**カモメになったペンギン**  
ジョン・P コッター  
ホルガー・ラスゲバー【著】  
藤原和博【訳】  
野村辰寿【絵】  
ダイヤモンド社

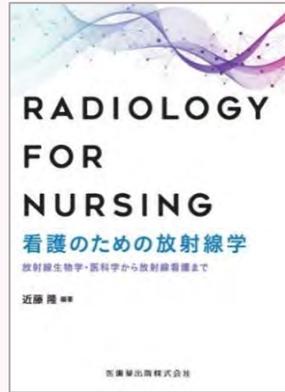


**保健師がきた**  
埜納タオ【著】  
双葉社



**経営12カ条：経営者として貫くべきこと**  
稲盛和夫【著】  
日経 BP  
日本経済新聞出版

◆環境保健学研究室 小嶋光明先生 著作のご紹介 <新刊コーナーに展示しています>



本学環境保健学研究室准教授 小嶋光明先生が執筆された書籍「看護のための放射線学 —放射線生物学・医科学から放射線看護まで—」が出版されました。放射線医学の発展により、放射線へのいっそうの理解が求められる中、看護職に必要な知識を網羅している最新のテキストです。小嶋先生は「第5章A 放射線の防護—知識編」を執筆なさっています。

◆環境保健学研究室 准教授 小嶋光明先生より

東日本大震災による福島第一原子力発電所事故以来、放射線の安全性について国民の関心は大いに高まりました。一方で、医療において放射線は、特に「がん」の診断と治療の両面で必要不可欠なものとなっています。これらを踏まえて、2022年に日本看護協会の専門看護分野に「放射線看護」が特定されました。医療の最前線で患者さんと直接接する看護職者に今後益々放射線の専門知識が求められていくと思われます。本書は看護の臨床にどう活かせるかに注力し、放射線の専門家と看護学の専門家によって執筆されました。看護職者だけでなく、看護師を目指す学生にとっても、放射線の理解が深まる一冊になると思います。

『看護のための放射線学 —放射線生物学 医科学から放射線看護まで—』  
近藤隆 編著  
小嶋光明、青木敏孝 ほか 執筆  
医歯薬出版 2023年

◆企画展示紹介 <皆さんにおすすめしたい図書を集めて図書館入口に展示しています>



◆学生時代にお世話になった1冊

先生方が学生時代に読んだ本を紹介します。新刊コーナーに置いています。

看護研究交流センター 篠原 彩 先生

シーラという子—虐待されたある少女の物語—  
トリイ・L・ヘイデン【著】 入江真佐子【訳】 早川書房



著者は情緒障害児を受け持つ教師です。この本は著者が6歳で傷害事件を犯したシーラと出会い、信頼関係を築いていく様子が描かれています。独特な表紙に目が奪われ購入し、シーラが置かれていた環境に衝撃を受けながらも、シーラを包括的に捉え理解しようとする著者の姿に感動して、一気に読んだのを覚えています。学生時代に物事を多面的にみることの重要性を教わった本のように思います。

基礎看護学研究室 荒木 庸輔 先生

嫌われる勇氣  
岸見一郎、古賀史健【著】 ダイアモンド社



学生の頃は読書をあまりしていなかったため社会人になってから出会った本をご紹介します。この本はアドラー心理学をテーマにした哲学者と青年の対話形式でアドラーの思想をわかりやすく解説した一冊です。アドラー心理学では、人は他者とのつながりを生きる目的としています。そのため、他者から認められたいという承認欲求に振り回されず、自分らしく生きることができます。本の内容は、少し分かりにくい点もありますが、人生の目的について考えるきっかけや、対人関係を改善するためのヒントを与えてくれるものになると思います。私自身も、自分の生き方や価値観を見つめ直すきっかけになりました。興味のある方はぜひ読んでみてください。

◆学生・職員からのメッセージ

◆ 学部生 小田 麻暖 さん ◆

私は、図書館の1番の魅力は新しい出会いが沢山あることだと思います。ふとした瞬間に本を開くことで思わぬ出会いや解決策を見出すことが気軽にできる図書館は、私が学校で1番お気に入りの場所です。課題で困った時や落ち込んだ時は図書館で本を読むことで気持ちがりセットされ、もっと頑張ろうと思えます。ぜひ、皆さんも気軽に図書館に足を運び、新しい経験を味わってはいかがでしょうか！

◆ 教務学生グループ 木村 水紅 さん ◆

大学は文学部へ進み、図書館司書の資格を取得。実家にある蔵書はジャンル不問の400冊、「あなたの趣味は何ですか」と聞かれれば「読書です！」と食い気味に答える。という具合に立派な本のオタクと化している私ですが、影響を受けた本は、大学時代に読んだものがほとんどです。森見登美彦の小説『夜は短し歩けよ乙女』から『読書力』なんていう新書まで、ジャンルは不問ですが、今まで読まなかったタイプの本にも手を伸ばしたのが大学の図書館でした。大学の図書館は、その大学ならではの専門書が気軽に読めるので、学生にとっては、その先を支えていく本に出会う最大のチャンスだと思います。社会人になって、残念ながら読書の時間は確保しにくくなりましたが、空いた時間は図書館へ足を向けて、私にとっては物珍しい医療関係の参考書をめくってみることが最近のマイブームになりました。みなさんもぜひ図書館を散歩して、自分だけの一冊を探してみてください。

◆生体科学研究室 濱中良志先生 おすすめ図書 <新刊コーナーに置いています>

野良犬の値段 <上><下> 百田尚樹【著】 幻冬舎



「わたしたちはある人物を誘拐しました。この人物を使って実験をします」突如、ネット上に現れた「誘拐サイト」。ホームレスの6人の人質の名前・写真を掲載するとともに、サイトはその命と引き換えにメディア各社に身代金を要求して始まる社会派ミステリーです。“人の命の価値”や“偽善”など多くのことを考えさせられますが、重たすぎず、スラスラと一気に読めて、最後にはスカッとさせてくれます。皆さんもお試ください。

◆図書館カレンダー（2024年1月～3月）

スケジュールは変更する場合がありますので最新情報はホームページでご確認ください。

□ 9時～20時    ■ 9時～17時    ■ 9時～15時（入試準備のため）    ■ 休館日  
■ 10時～18時（休日の開館日は学内者・卒業生のみ利用可能です）

2024年1月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29		

3月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

図書館だより Vol.20 2024年1月発行 大分県立看護科学大学図書委員会